



じゅうにし 十二支とはどういうことなの、だれがきめたの

ちゅうごく つた 中国から伝わったもの

じゅうにしは、ちゅうごく はじ 中国で始まったものです。こよみ のうえでのとし ひ かぞ ほうほう 暦のうえでの年や日を数える方法です。

ちゅうごく もっと ぶる おうちょう いん くに くに きげんぜん せいきまつ 中国で最も古い王朝に、殷という国がありました。この国は紀元前17世紀末、あるいは、紀元前16世紀初めから紀元前11世紀ごろにかけて栄えた国です。わたしたちの生きていた時代は、20世紀の終わりですから、今から3500年ぐらい前になります。十二支は、こんなに古い時代に考えられたといわれています。

じゅうにし かんし じっかんじゅうにし 十二支は干支、十干十二支、「えと」ともいう

じゅうにし 十二支は干支(かんし)ともいい、十干十二支(じっかんじゅうにし)のことです。「えと」ともいいます。

じゅうにし じゅうにし ね うしとら たつ み うまひつじさるとりいぬ い じゅん 十二支は、子丑寅卯辰巳午未申酉戌亥の順になっています。

じゅうにし どうぶつめい あ 日本では、十二支に動物名を当てて、「ね(ねずみ)、うし、とら、う(うさぎ)、たつ(りゅう)、み(へび)、うま、ひつじ、さる、とり(にわとり)、いぬ、い(いのしし)」とよんでいます。

じゅうにし せいき はじ じこく かた じゅうにし つか えとじだい 日本では、10世紀の初めごろから、時刻のよび方に十二支を使うようになり、江戸時代の終わりまで使われていました。(監修・田代 脩)

